

# “穴城・小諸城”と城下町の成り立ち

城下町を楽しむうえで、小諸城の知識は外せません。この小諸城を起点に城下町や北国街道が形成され、いまの小諸のまち並みに繋がります。小諸を楽しむ情報なら、こもろ観光局HPへ →



## 小諸城ができるまで



小諸城と城下町の基本的な形は、戦国時代に武田氏が小諸を支配していた時期にできはじめたと考えられています。

「武田信玄肖像画」  
写真提供：長野市立博物館

### ① 古代～

集落は存在していたかもしれないが、大きな都市が形成された形跡は見つかっていない。



### ② 1487年～

大井氏が、中沢川のほとりに鍋蓋城(館)を作る。鍋蓋城を中心に、まちがつくられ始めたと考えられる。

### ③ 1523年～

甲斐(今の山梨県)の武田信玄が佐久郡を攻め落とし、小諸を支配。鍋蓋城を取り込んで大きく改修された小諸城は、信玄が佐久・小県を治める重要な拠点だったといわれている。

### 小諸城築城の特徴

浅間山噴火の影響を受けた、この地方特有の田切地形\*が活かされ、千曲川に下っていくように城郭が形成される。全国でも珍しい「穴城=本丸が城下町より低い位置にある城」となっている。

\*田切地形…火山堆積物によりできた崩れやすい土地が、河川の流れて深く侵食され、急な崖によって分断された地形。



昔の街道は、見晴らしがよく、起伏の少ないルートが選ばれたという。北国街道・小諸宿も、比較的起伏の少ない与良町から入り光岳寺の角で折れ、川に挟まれた尾根(本町)づたいを緩やかに千曲川方面へ下るルートで作られている。目線には北アルプス山脈が飛び込んでくるという、旅人にもうれしい街道づくり。江戸後期には、町人地に500軒、武家地に200軒ほどの家があったとされる。

## 城下町の形成

豊臣秀吉が天下統一(1590年)すると、仙石秀久が小諸城主として、城や城下町を整備。江戸時代に参勤交代が始まると、大名等の宿として本町に本陣等が配されました。

小諸駅付近には、今でも本陣、本陣問屋場、脇本陣が揃います。



「円覚公御画像(仙石秀久肖像)」  
写真提供：豊岡市立歴史博物館

【次頁】いまま残るまち並みとその楽しみ方を紹介します!



写真提供：#キモノデコモロ

## いまこそ再発見! "地元の魅力"

### 特集目次

- 1 “穴城・小諸城”と城下町の成り立ち (3p)
- 2 江戸時代から残る建物やお店をご紹介 (4-5p)
- 3 秋のこもろ市民まつり 10/3(日)～10/23(土) (6p)
- 4 信州・こもろ第10回 城下町フェスタ (7p)

今 年の秋は、「少ない移動」「密の回避」といった感染拡大防止の基本を守りながら、「城下町・小諸」をご堪能ください。

この秋、市内では、おなじみの秋のお祭りや新たなイベントが、感染症対策の面影が色濃く残る小諸駅周辺では、そのまち並みを活かしたイベントが数多く企画されています。

本号では、小諸の城下町の歴史と、現在でも体験できるまち並みの一部をご紹介しますとともに、9～10月に開催されるイベントをお知らせします。

コロナ禍で注目される「地元観光」

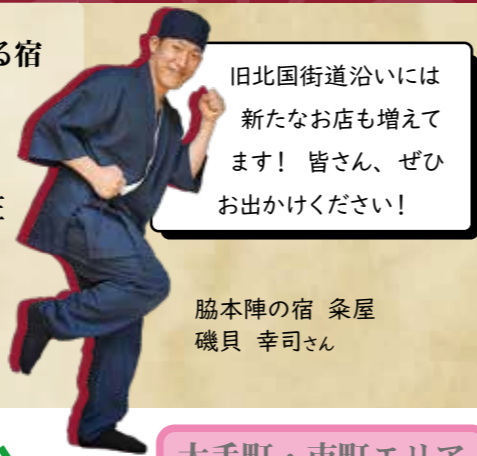
【特集】

# 知って、楽しむ 小諸の城下町

# 江戸時代から残る 建物やお店をご紹介します！

※地図はNPO 法人小諸町並み研究会作成(当時の概略地図)。建物紹介では現代の場所として掲載していますが、地図内に文字で表記がある場合は、当時の場所です。

小諸のまちは、「城を堅守するための城下町」であるとともに、「経済を支える宿場町」でした。各地からの物資が集散・流通する拠点となり、問屋業が発達。小諸商人によって一大経済圏が形成され、まちには活気があふれました。この歴史が、県内有数の豪商たちを育てた「商都・小諸」の礎となり、現在の魅力あるまち並みへと繋がっています。いまでも、蕎麦や味噌、呉服屋などをはじめとした、古い商家を活用したギャラリー、骨董店などが建ち並んでいます。



旧北国街道沿いには新たなお店も増えます！皆さん、ぜひお出かけください！

脇本陣の宿 糸屋 磯貝 幸司さん

## 1 本陣主屋



参勤交代時に大名が宿泊した建物。最近まで手仕事ギャラリーとしてお客様を迎えてきた。現在、資料館として歴史を伝える施設になっている。

※現在 1 の場所に移築復元されている。

## 2 脇本陣の宿 糸屋



参勤交代時に大名の上級家臣(場合によっては大名も)が宿泊。加賀藩前田家宿札(実物)も保管されている。幕末には、名君とうたわれる小諸藩主・牧野康哉公が、大流行していた天然痘の予防及び治療する場として利用した。現在、宿泊や茶屋として営業している。

## 3 山謙酒造



江戸中期創業の酒蔵から建物を買取り、山謙酒造として始業したのは明治43年(1910年)。裏通りの大きな酒蔵は、江戸時代には本陣の米蔵だった。



1742年の大洪水(戊の満水)により、上図の青い部分325軒もの家々が流されました。これにより、本陣・脇本陣の機能が本町から市町へ移されました。



参勤交代や善光寺参詣などで、多くの人々が往来し、繁盛していました！

武家地と町人地の間には石垣がめぐらされ、それぞれの領域が明確に分けられていました！

歴史情緒あふれるまち並みで、お食事やお買い物が楽しめますよ。

小諸城の鬼門となる北東を中心に、寺や神社(17寺・4社)が配置されています。

## 4 大塚酒蔵



この建物は住居用で、大商家「大塚本店」としての名残がよく見られるつくり。裏通りには酒蔵があり、現在も「浅間嶽」等の製造・販売が行われている。

## 5 そばや七良右エ門



一時期、本陣代として利用されたといわれる建物で、現在の位置へ移設されている。小諸ならではの、手打ちそばが味わえるお蕎麦屋さん。

## 6 酢久商店・山吹味噌



江戸中期から酢・味噌醤油を醸造する。鯉節や塩などの問屋業も行われた。鉄道開通や製糸業発展にも一役買い、今でも全国的に人気のお味噌屋さん。

## 7 北国街道与良館



もとは商家屋敷。敷地には小諸城の銭蔵が移築され、現在は地域の方の温かさに触れられる公共施設に。周囲には高浜虚子記念館や、庄屋をつとめた小山家屋敷など旧家がみられる。

## 8 中吉



江戸末期の建物が、そのまま活かされ、現在も、地元食材を使った人気の古民家レストランとして営業されている。

まだまだ魅力的な建物やお店がたくさんあります！  
この秋、小諸の城下町を楽しく歩いてみませんか。

紙面協力：(一社) 小諸観光局 / 小諸観光ガイド協会 / NPO 法人小諸町並み研究会

さらに詳しい情報は、こちら【NPO 法人小諸町並み研究会公式サイト】

